

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2014(v.1.2)
 物理環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ささしまライブ24地区「(仮称)グロー	階数	地上38F
建設地	愛知県名古屋市中村区平池町4丁	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	12,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年
建物用途	事務所、ホテル、工場、等	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2014年9月8日
敷地面積	17,267 m ²	作成者	
建築面積	11,310 m ²	確認日	2014年9月8日
延床面積	156,857 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BE3.2 ★★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%

標準計算

①参照値 100%
 ②建築物の取組み 86%
 ③上記+②以外の 86%
 ④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 4.1

Q1 室内環境 Q1のスコア= 4.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.3

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	<p>「環境」をテーマとした街区再開発コンペ要求を受け、環境首都なごやを目指す都市の建築物に相応しい、最高水準の環境配慮建築を目指した。パンプと省エネルギーの融合化を図り、眺望型日射遮蔽ブラインドによるダブルスキン効果と、外気冷房が容易にできる多機能省エネPC外装(ピラスター)等種々の計画とした。</p>	
その他	<p>環境の見える化対策として映像配信設備を計画した。また震災以降のエネルギーインフラ停止時の対策として、備蓄倉庫の設置、48時間の非常用発電機の実施を計画した。</p>	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
ブラインド、カーテンウォールと一体型のエアバリア方式により温熱環境を配慮した。F☆☆☆☆の採用、必要十分な換気量、取入口配慮等を計画した。	OAコンセント容量50VA/m ² 、天井高2.8m等のオフィスサービス機能を計画した。また、維持管理の高度化、各構成部品・部材の長寿命化、更新性・信頼性向上を図り、ゆとりある空間を確保した。	低層棟は大規模な壁面緑化・屋上緑化・屋上農園や、太陽光発電・太陽熱利用設備、ミスト等により環境視認性を高めた。アトリウム・オープンエプロザ・屋上農園、水盤等で敷地内温熱環境を向上した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物の断熱性能を確保すると共に設備システムの高効率化により消費エネルギーの低減を図る。また、エネルギー管理の実施により、各種エネルギー消費量を低減する。	雨水および工業用水利用による雑用水利用により省資源化を図る。部材の再生利用に配慮し非再生資源を削減する。有害物質を含まない材料使用を推進しフロン・ハロン使用を回避した。	屋上緑化・壁面緑化等により、温熱環境の改善CO ₂ 排出率を低減し温暖化防止対応を実施する。地域冷暖房の採用による大気汚染防止、低騒音、低振動を図った。雨水流出抑制、交通渋滞防止、風害・日照障害・光害抑制の対策により周辺環境への配慮を実施した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される